

この取材レポートでは、各務原市まちづくり活動助成金 令和4年度事業の活動の様子をご紹介します。

令和4年度交付事業 … <スタート助成>1年目：1事業/2年目：2事業<まちづくり助成>1年目：3事業/2年目：1事業



11月27日(日)



11月27日(日)

団体名 NPO法人 for your smile
まちづくり助成1年目

事業名 マルシェによる子どもたちの成功体験応援事業

事業概要 子どもが自己肯定感を高め、自主的に動く力を身に付けられるよう、子どもたち主体のマルシェの開催を目指して学ぶプログラムを実施する。

事業費総額：460,651円(変更後)
／**交付決定額**：285,000円(変更後)

主な経費内容 講師謝礼、駐車場代、チラシ印刷費、コピー用紙、会場装飾、事務消耗品、大判印刷、名札、体温計、救急箱、感染症対策用品、傷害保険料、郵送費、会場使用料、補完コンテナ、荷物運搬用台車

11月26日(土) 15:00~21:00、産業文化センター2階第3会議室においてマルシェ準備が行われ、参加者の小中学生32人と保護者らが翌日のマルシェに向けて出店ブースの展示や会場装飾などを行いました。

27日(日) 10:00~15:00、マルシェ本番。出店する参加者33人に加え、プロの出店者2店と、マルシェ経験が豊富な大人サポーターのほか、高校生ボランティア、子どもたちによるボランティアを提供する団体・キッズボランティアリトルハンドのメンバーがスタンバイした会場に、およそ500人の来場者がありました。

参加者は各々工夫を凝らして出店。お釣りや包装の準備も各自で行いました。高校生ボランティアは、横に付き添って小中学生出店者をフォローしました。出店者は「頑張って商品を作ったので、お客さんがたくさん来てくれて嬉しい。」と話し、積極的に来場者に声を掛けていました。

12月4日(日) 9:30~12:00、産業文化センター2階第3会議室において振り返りの会が行われ、子どもたちからは、一人一人、お客さんに喜んでもらう為に工夫したことなどの発表がありました。

団体名 創作オペラ「貞奴」プロジェクト
まちづくり助成1年目

事業名 地域文化芸術レガシーの承継と新たな挑戦：村国座・皆楽座を活用した第1回貞奴芸術祭の開催事業

事業概要 世界で活躍し日本の近代舞台芸術の先駆けとなった、各務原ゆかりの川上貞奴を顕彰して、各務原内外の音楽家・愛好家らと共に芸術祭を開催する。会場は使用可能な形で修復されている明治時代に建てられた二つの農村舞台を活用。各務原の新たな魅力的なコンテンツの創出へ向けて第一歩を踏み出す。

事業費総額：872,800円
／**交付決定額**：300,000円

主な経費内容 出演者謝礼、チラシ印刷代、資料印刷代、事務用品代、通信費、振込手数料、チケット販売手数料、公演時会場使用料、練習・会議時会場使用料

11月27日(日) 13:30~16:00、村国座において、「第1回貞奴芸術祭～紅葉編～」が開催されました。2階の桟敷も含め満席となる、およそ150人が来場しました。駐車場の案内や会場設営、来場者受付などには、地域住民である各務西町中組の歌舞伎保存会の皆さんが協力されました。

第1部は、オペラ貞奴 GALA コンサートとして、過去2作品の代表曲である11曲を披露。

第2部は、貞奴が生きた時代と同じ1870年代にフランスパリで初演されたオペラ「カルメン」から、代表的な5曲を披露。堅苦しさを感ぜさせないコミカルな解説から始まる迫力の舞台に、来場者も自然に引き込まれていました。

来場者からは、「村国座は一般的なホールに比べて観客席が出演者に近く、とても迫力を感じました。」「とても分かりやすかった。オペラを少し身近に感じました。」という声がありました。

創作オペラ「貞奴」プロジェクト代表の金光さんは、「貞奴さんをキーワードに、多くの方たちが活躍できる場を、これから先も創っていけたら。」と話されていました。

各務原市まちづくり活動助成金 令和4年度交付事業取材レポート

NO.4



12月18日(日)



1月8日(日)

団体名	ミニ SL 各務原	まちづくり助成1年目
事業名	ミニ SL による三世代交流再開事業	
事業概要	市内の地域三世代交流を目的に、市内の保育園・幼稚園児にミニ SL に楽しく乗車していただく事業。	

事業費総額：483,854 円 (確定)
／交付確定額：300,000 円

主な経費内容	レール消耗品、枕木、石炭、スチームオイル、事務消耗品、保険料、缶バッチ作成委託料、チラシ印刷委託料、デザイン費、リニアモーターカー備品、SL (マウンテン) 備品
--------	---

12月18日(日) 13:00~15:00、神置町の倉庫において、ミニ SL 線路のメンテナンス作業が行われました。
参加したのは、ミニ SL 各務原のスタッフ6人。ミニ SL 全長240mにおよぶ、およそ120本のレールを、1本1本メンテナンスしました。
スタッフは、レールのヤスリ掛けをしたあと、ブロワーで砂や誇りを取り除き、アセトンで汚れを落とし、最後にネジ穴の調整の流れで、分担して黙々と作業を行いました。1回ミニ SL を運行すると、線路には大きな負担がかかるため、左右のレールを入れ替えるなど、修繕作業やメンテナンスが欠かせないとのこと。
今年度から団体に加入したメンバーは、「毎年の恒例行事と聞いていますが、参加するのは初めて。教えていただきながら、できることを担当させていただいています。」と話されました。
団体では、「メンテナンスには技術を持つ人が多く必要。」として、機械などに興味を持つ有志メンバーを随時募集しています。

団体名	キッズボランティア リトルハンド	スタート助成1年目
事業名	子供のボランティア参加促進事業	
事業概要	幼児から高校生までの子供と保護者が参加できるボランティアを企画運営する。子供が地域でお手伝い出来ることを探し、地域貢献に繋げる。	

事業費総額：16,573 円 (変更後)
／交付決定額：11,000 円 (変更後)

主な経費内容	チラシ印刷代、A4用紙、プリンターインク、事務消耗品、収納ケース
--------	----------------------------------

1月8日(日) 13:00~14:00、鶴沼南町河川敷公園において、キッズボランティア リトルハンドの主催で清掃ボランティアが実施され、小中学生11人・スタッフ2人が参加しました。
参加者は、軍手をはめてトングを握り、ポイ捨てされた煙草の吸い殻やペットボトル、風に飛ばされてきたお菓子の袋など、収集袋3袋分のゴミを回収しました。子どもたちは、用水路の中や、草が生い茂った法面など、一見見落としてしまふような場所にあるゴミも積極的に回収。スタッフは、「道路の脇はゴミが多いね。」「ポイ捨てすると、こうして残ってしまうね。」などの声を掛け、気付きを促していました。
代表の松田さんは、「本当は柵を越えてギリギリのところまで綺麗にできたらいいと思うので、ゴミを見てしまった以上、放置するのは子どもたちも私たちも悔しい。けれど、大人でできない場所もあるので、子どもたちのこうした頑張りを見て、自分も、と思ってくれる大人が出てきてもらえたら嬉しいです。」「見守り体制を整えながら徐々に大きな輪にしていこうと思いました。」と話されました。

各務原市役所 市長公室 まちづくり推進課 (産業文化センター6階)

電話 058-383-1997 メール machidukuri@city.kakamigahara.gifu.jp

各務原 まちづくり活動助成金

検索

市ウェブサイトでも、この取材レポートをご覧いただけます。 市ウェブサイト➡ <https://www.city.kakamigahara.lg.jp/>
ホーム > くらし・手続き > 市民活動・まちづくり活動・自治会 > まちづくり活動 > まちづくり活動助成金 > 令和4年度助成交付事業 > 令和4年度交付事業取材レポート

